

2021/7/29

(オマケの英語教室+うと Q 世話し) 書庫版

Sustainable



最近よく耳にする言葉「SDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)」

この中に出てくる sustainable という英単語は sustain (持続する、維持する) + able (出来る、可能な) がくっついた言葉で「持続可能な」と訳されております。

もう少し言いますと sustain の「-tain」には「保持する」という意味がって「sus=super 超えて維持する」で「持続する」となり、メンテナンスでおなじみの動詞形 maintain なら「メイン(main-)を保持する」で「補修する」又コンテンツでおなじみの動詞形 contain なら「中身(con-)を維持する」で「含む、含有する、包含する」となり、荷物の運搬時の入れ物や未持置き場になるコンテナは「contain する物」となります。

余談はさておき、この sustain (持続する) という言葉は元々 grow、growth 「成長する、成長」との対比語として出てきた言葉です。

つまり (GDP 国民総生産に代表される経済的) 「成長よりも格差是正、公平分配、互惠相互扶助、共存共栄等を軸として「持続可能な」社会やシステム作りに主眼を置こうという意味です。

それというのも、経済的「成長」が人間社会や地球環境に「貧困」や「破壊」をもたらすという悪い副産物の方が目立ち始めたからです。

「このままでは人間社会も地球環境もぶっ壊れて取り返しのつかない事になる」

という危機意識から出たのだと思います。

それで「多少快適ではなくなっても」「多少不便を感じても」元々の土台がなくなるよりはマシだから、ここは一つ「シェアしたり、控えたり、腹八分目の満足にしたり」しよう。そうしないと「全てを失う事になりかねないから」

しかし「成長概念」に慣れきった我々にはそれがどうも簡単には受け入れられされなさそうです。

「今日より明日はもっと良く、今日より明日はもっと豊かに」の何処が悪いのよ？」

とか

「辛抱、忍耐、我慢しろっ、てこと？それじゃ欲しがりません、勝つ迄は、の戦前と一緒にゃないのよ」

というお話が出てきそうです。

しかし此処で疑問になってくるのは

「もっと良く」の「良く」って何を指しているのか？「もっと豊かに」の豊かさは内を指しているのか？

でしょうし、

「辛抱、忍耐、我慢」という古色蒼然たる言葉達は「どのような時代に使われていたのか」を一旦除外してみた上で、元々の言葉の原義は何だったのか？

(例えば「辛さを抱え得る耐性を持つ事と思い上がりや我が儘をセーブする事」と置き換えるだけでずいぶんと印象が変わっても来ますから)

それを今一度、上の項目と下の項目と一緒に考えてみる必要がある様な気がします。

もっと簡略化して申し上げますと

「何を控えて、何を伸ばせばいいのか？」

それをこれから考えていきたいと思っております。

それが「具体的なシステム」として見つかった時に我々人間社会や地球環境が相互扶助的に sustainable になれる様な気がしております。

それを「sustainable development goals SDGs」と言っているのだと思っております。